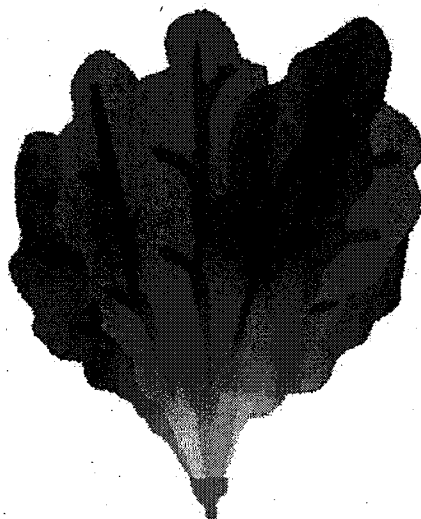


新天地でハウレンソウ栽培を拡大し、周年安定生産を実現するプラン

湯梨浜町 浦川 明也



令和2年5月20日 農業経営改善計画認定（湯梨浜町）

1. はじめに
2. 農業経営の現状
3. 課題と対策
4. 地域への波及効果
5. 農業経営の見込み
6. 具体的な取り組みと役割分担
7. 支援事業の内容

1. はじめに

(1) 就農から現在の状況に至るまで

私は、平成19年に湯梨浜町で農地を借り受けて就農し、ハウレンソウの専作でハウス周年栽培に取り組んできました。就農当初は、ハウスの温度調整や水の管理等に苦勞し農業の難しさを痛感しましたが、地元のベテラン農家の方にハウスを見学させていただいたり、直接指導をいただいたりすることで栽培技術も徐々に向上し、経営もしだいに安定してきました。地元JAのハウレンソウ生産部に就農当初から加盟しておりますが、安定出荷の実績が認められ、近年は部会役員を担当させて頂きました。

しかし、平成30年、農地の所有者から突然、土地を返還してほしいとの連絡を受け、私は途方に暮れておりました。ここまでせっかく頑張って来たのに、廃業する訳にもいかないの、何とか別の場所でハウレンソウ栽培を行おうと決心しました。

一方、私の住んでいる湯梨浜町石脇の農地は水田が主体で、転換畑でも排水性の悪い場所が多く、近年の異常気象から度重なる大雨や台風の影響を受け、畑が冠水してハウレンソウが腐ってしまうことが増えてきました。用水も濁ることが多く、現在の農地はハウレンソウ栽培にはあまり適地とは言えず、新たに条件の良い代替地を探す必要がありました。

(2) 営農継続の危機を打開するために

上記の差し迫った営農の危機を逆に今後の更なる発展の契機にしたいと私は考えています。新たな農地はできれば購入し、今回のような予期せぬ返還のリスクを避け、栽培規模も現在より増やして安定した農業経営を行いたいと思いました。

そこで、ハウレンソウの耕作に適した新たな農地を居住地の近郊で探しましたが、希望に沿う物件が見当たらず、より広い範囲で候補地を探していたところ、条件の良い黒ぼくの畑地が北栄町由良で見つかり、農地取得の交渉を行う状況に至りました。

新天地では、将来の農業経営をより良好にするため、ハウスを増棟して作付規模を拡大し（現在の1.56倍）、新たに収穫物調製機も導入して出荷作業の効率化も図りたいと考えます。そして、地域の消費者の皆様へ新鮮なハウレンソウを周年栽培で安定供給したいと考えています。

この計画の設備投資に関しては、私にとって、かなりの経費負担が掛かるため、「がんばる農家プラン事業」を是非活用させていただき、計画を実現したいと考えています。

2. 経営の現状

(1) 作付け及び生産の実績

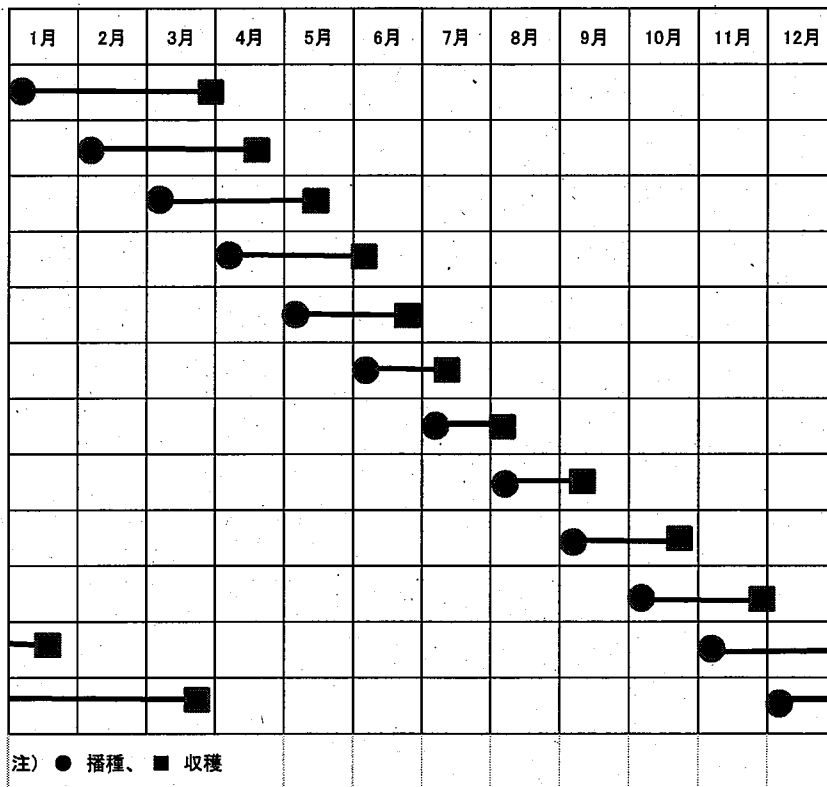
	H29年	H30年	R1年	H29-R1 平均
作付け面積(a)	21.6	21.6	21.6	21.6
生産量(kg)	17,848	19,607	17,309	18,255
反収(kg/10a)	8,263	9,077	8,014	8,451

(2) 経営の実績

	費目	H29年	H30年	R1年	H29-R1平均
収入	ハウレンソウ 収入				
	その他野菜 収入				
	受託収入				
	家事消費				
	雑収入(補助金)				
	雑収入(その他)				
	収入計①				
支出	種苗費				
	肥料費				
	農具費				
	農薬衛生費				
	諸材料費				
	修繕費				
	動力光熱費				
	農作業衣料費				

減価償却費	
荷造運賃手数料	
雇人費	
地代・賃借料	
土地改良費	
雑費	
経費合計②	
差引 ①-②	
所得率(%)	

(3) 栽培体系 (作型)



(4) ホウレンソウ品種

播種時期	品種
春蒔き(3月～5月)	ジャスティス、ドンキー
夏蒔き(6月～8月)	タフスカイ、ミラージュ
秋蒔き(9月～11月)	オシリス、ゴードン、福兵衛
冬蒔き(12月～2月)	オシリス、伸兵衛

3. 課題と対策

(1) 営農地の移転に伴うハウスの建設および規模拡大

<課題>

- ・現在の農地（借地、40アール）はR5年末までに所有者に返還しなければなりません。そこで、本年、北栄町由良の新農地（購入地35アール、借地25アール、計60アール）を自己資金で取得する計画で、その農地でホウレンソウを周年栽培するためのハウスの整備を今後すすめる必要があります。
- ・経営を発展させ安定的な営農をめざすため、事業最終年（R5年）にはハウス面積を現在の約1.5倍を増やすことを目標とします。
- ・現在の農地での用水は河川からポンプで汲み上げていますが、水質の濁りと水量の不安定さが問題で、新農地では安定した清浄な水源による灌水を行えるようにしたいと考えています。

<対策>

- ・現在のハウスは老朽化が進んでおり、状態の比較的良い部材を集めて1棟は何とか再利用して移築しますが、その他のハウス6棟は新築する計画です（現在4棟、21.6a → R5年7棟、33.8a）。
- ・ハウスの新設は3か年にわたり2棟ずつ段階的に行い、最終年に1棟を移築します。
- ・北栄町では畑灌の利用申請を行い、良好な水質の灌水を計画的に行い高品質なホウレンソウ栽培をめざします。

(2) 労働力の確保と労働時間の縮減

<課題>

- ・ホウレンソウ栽培において、収穫物の調製に係る労力負担は最も大きく、全労

働時間の約半分がこの作業で占められます。多くの人手と時間が掛かるこの調製作業を機械導入により改善する必要があるものと考えています。

- ・耕作面積はR5年以降に約1.5倍となるよう増やす計画で、それに比例して作業量も増大することが見込まれ、機械導入のみでは改善できない作業行程は新たな雇用で対応する必要性が生じます。

<対策>

- ・国の農業機械等緊急開発・実用化促進事業で近年開発された軟弱野菜調製機(NC301)を導入し、調製に掛かる時間と労力を縮減する改善を行います。導入予定の機械は根切りと株元の不要葉の除去作業が自動で出来、2～3人役の調製作業を担うことができるとされています。
- ・現在は家族4人と、パートタイム雇用者2名で農作業を行っていますが、新たにパートタイム雇用者を2名増員する計画です(親戚の雇用予定者有り)。これにより、秤量、袋詰めなどの導入機械で対応できない行程等での増大する作業を担当してもらいます。

4. 地域への波及効果

(1) ハウス周年栽培による新鮮なホウレンソウの安定供給

これまで、新品種の導入や連作障害回避等の耕種技術の工夫を行い、年間を通してホウレンソウを絶え間なく出荷する栽培体系を何とか確立することができました。新天地でもこのような技術研鑽を継続し、良質なホウレンソウを地域の消費者の皆様へ安定的にお届けする一助を担いたいと思っています。また、この取り組みは地元のホウレンソウ生産者組織の出荷量の安定化と産地強化にも微力ながら貢献できるのではないかと考えています。

(2) 先進的な調製機の導入によるモデル的作業改善実践

上記のように、ホウレンソウの収穫物調製に係る労力負担は最も大きく、全労働時間の約半分がこの作業で占められます。特に調製作業は商品評価、ひいては組織ブランドの評価にも影響するため、集中力の持続を要する大切な行程になっています。新開発の軟弱野菜調製機を導入し、作業効率の向上と品質の高位均一化を図りたいと考えます。本機種はまだ導入事例が当地区では殆ど無く、モデル事例として活用できると考えています。この作業改善の試行につきましては、ホウレンソウやコマツナなどを栽培する他の軟弱野菜生産農家からの視察希望などがあれば積極的に対応したいと思えます。

(3) ホウレンソウづくりの魅力の発信

これまで5か年、地元小学校の社会科見学の授業で、私のハウスホウレンソウ栽培を生徒さんに見に来てもらっています。幼少期から農業に関心を持ってもらうことは大切で、将来、一人でも多くの方々が農業を志してもらえればうれしいと思います。また、鳥取県立農業大学の学生さんも当方のハウスを何度も訪問されてプロジェクト研究や就農準備のための情報収集を行われました。このような将来の農業の担い手の育成支援に結び付く活動は今後も是非続けてゆきたいと思っています。

5. 農業経営の見込み

(1) 栽培規模の拡大計画

年	栽培面積(アール)			北栄町でのハウス建築棟数	
	湯梨浜町石脇	北栄町由良	合計	新築	移築
R2年	21.60	0	21.60	0	0
R3年	21.60	9.66	31.26	2	0
R4年	21.60	19.32	40.92	2	0
R5年	0	33.81	33.81	2	1
R6年	0	33.81	33.81	0	0

※ 湯梨浜町石脇でのハウスサイズは6m x 90m、北栄町由良でのハウスサイズは6m x 80.5m

(2) 労働時間の縮減に向けた改善事項の取入れ計画

年	農業従事者数(人)		調製機の導入(台数)
	家族労働者	臨時雇用者	
R2年	4	2	
R3年	4	2	
R4年	4	4	1
R5年	4	4	
R6年	4	4	

(3) 作業人員の構成

	氏名 (法人経営にあつては 役員の氏名)	年齢	代表者との続柄(法人 経営にあつては役職)	現状		見通し	
				担当業務	年間農業従事 日数(日)	担当業務	年間農業従事 日数(日)
(参考) 経営の構成	浦川 明也		(代表者)		350		300
			父		350		300
			母		350		300
			兄		350		300
雇用者	常時雇(年間)		実人数	現状	人	見通し	人
	臨時雇(年間)		実人数	現状	2人	見通し	4人
			延べ人数	現状	3.00人	見通し	6.00人

(4) 生産見込

	R 2 年	R 3 年	R4年	R5 年
作付け面積(a)	21.60	31.26	40.92	33.81
生産量(kg)	18,000	26,050	34,100	28,175
反収(kg/10a)	8,333	8,333	8,333	8,333

(5) 経営収支見込



6. 具体的な取り組みと役割分担

内容	R2年	R3年	R4年	R5年	事業主体	連携機関
農地の取得および賃借の契約	○				本人	農業委員会(北栄)
ハウスの新設		◎	◎	◎	本人	県、町(湯梨浜)
ハウスの移築				◎	本人	県、町(湯梨浜)
軟弱野菜調製機の導入			◎		本人	県、町(湯梨浜)
作業舎の賃借契約			○		本人	農業委員会(北栄)
品質向上	○	○	○	○	本人	普及所(倉吉、東伯)
GAPの取り組み	○	○	○	○	本人	普及所(倉吉、東伯)
栽培技術研修の実施・参加	○	○	○	○	本人	普及所(倉吉、東伯)

7. 支援事業の内容

年度	項目	事業費	事業費 年度別合計	負担区分			消費税
				県(1/3)	町(1/6)	本人(1/2)	
R3	パイプハウス(6mx80.5m)新築 2棟	8,030,000	8,030,000	2,676,666	1,338,334	4,015,000	803,000
R4	パイプハウス(6mx80.5m)新築 2棟	8,030,000	9,144,000	3,000,000	1,500,000	4,614,000	911,400
	軟弱野菜調製機NC301(クボタ)	1,114,000					
R5	パイプハウス(6mx80.5m)新築 2棟	8,030,000	9,764,000	3,000,000	1,500,000	5,234,000	973,400
	パイプハウス(6mx80.5m)移築 1棟	1,734,000					
合計		26,938,000	26,938,000	8,676,666	4,338,334	13,863,000	2,687,800